



▲片庭市長を囲むソレイユの皆さん。(写真左から)片見さん、菩提寺さん、加藤さん、岡本さん=伊奈庁舎



▶ひとたびお揃いのTシャツに袖を通せば、子どもに負けないパワーと元気で託児にあたる=生涯学習課みらい親楽講座での託児(谷和原公民館)

す。健診は流れ作業みたいに終わっちゃうんですよね。質問する間もなく「次にいつてくださーい」と言われてしまうので。人との会話に飢えているお母さんもいたりするんです。そういうときに「こんなガイドブックみたことありますか？」と紹介する方がいてくれると、すごく心強いかなと思います。

あと、子育て支援室について、私はよくきらくやまの支援室に行くんですが、その保育士の方もほかの支援室と連携されていて、いろんな情報を教えてくれるので、すごく情報を得やすくなってきたなあと感じます。

**菩提寺** 子育て支援室は、子育てにみんなで力を入れるっていうところが、すごく浸透していると感じます。それが市のこども福祉課と公立の保育園、それから私立の保育園もみんな協力して、同じような環境を整えようとしていますよね。もともとそれぞれが独自でやっていたのを、市が参入することでまとまりがでて、みんなが力を発揮しやすくなった、ということだと思います。

**市長** 最後にありますが、子育てのしやすいまちづくりのために、行政が、また、地域の大人たちがすべきことはなんだと思いますか。

**加藤** 難しい問題ですね。今、つくばみらいには新しい人がたくさん集まってきていますよね。私たちくらいの年代で、何かしたいんだけど、どうしたらいいかわからないとか、暇な時間はあるけれども、公園を散歩するくらいで終わってしまうとか。そういう人をもっとすくいあげて、ボランティアに参加しやすい、入りやすい仕組みをつくって、手助けをおねがいする。もうちょっと上手にすくいあげることができれば、手の空いた50代、60代の方で、何かしていただける方はたくさんいらっしゃると思うんです。

**市長** そうですよ。そういう方が、なんとかうまく出てこられるような雰囲気づくりが大切ですよ。

**加藤** いくら広報紙で「募集し

がるうひろばサロン」を「準」子育て支援室みたいに、皆さん考えてくださって。それがすごくうれしかったですね。

**ボランティアに参加しやすい環境づくりを**